

科目名 Course Name	保育実習Ⅲ Childcare Practice III			ナンバリング No.	K3-012		
年次	2年	期別	通年	単位数	2	授業形態	実験実習
担当者氏名	加藤 茉奈美						
連絡方法	C-Leaning に対応。または加藤研究室。						
必修/選択	選択(保育士養成課程選択必修:ⅡかⅢ)						
関連 DP	DP2,DP3,DP4,DP5						
授業の概要と到達目標	児童福祉施設等において、特別な支援を要する子どもたちと生活する中でその気持ちを理解するとともに、児童福祉施設の機能と保育士の仕事を理解する。その中で保護者の願いについても学び、子どもと積極的に関わり、特別に支援する内容を自ら考え実践することで、保育技術の向上に向けて努力する力をつけることができる。						
授業の方法	児童福祉施設等の必要性と保育の実践方法を考えながら、児童福祉施設等にて11日間(実習時間90時間以上)の実習を行う。実習施設によっては土曜日、日曜日の実習や行事、遠足などにも参加する。子どもの発達と個人差や家庭環境の違いにも目を向けた保育活動を目指すようにする。						
学習成果	L01						
	L02	子どもと積極的に関わり、特別に支援する内容を自ら考え実践することで、保育技術の向上に向けて努力する力をつけることができる。					
	L03	子どもを受容し、共感する態度を身に付けられる。特別な支援を要する子どもの保護者への心情を踏まえ、幅広い視点から支援を工夫することができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	実習巡回時に実習担当教員により指導。						
教科書/参考図書	佐野日本大学短期大学「保育実習の手引き」						
履修上の留意点やルール等	保育実習指導Ⅲの授業を必ず履修し、単位取得の成績を得ていること。保育士必修科目の必要単位が取得されていること(不可や欠時不認定の科目が多い場合は、面談の上実習延期や辞退を判断する)。実習に臨む態度や意欲を明確に示し、実習施設に対して適切に行動できること(状況によっては実習延期や辞退も検討する)。事前・事後学習時間の目安は各回45分相当とします。						
担当教員の実務経験	実務経験(職種:障がい者支援施設 生活支援員 職歴13年) 施設での一日の流れや様子、支援方法について説明をする時に活かす。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	実習施設における評価基準により評価された5段階評価に基づく。(5:優れている、4:やや優れている、3:普通、2:やや努力を要する、1:努力を要する)。			70	
レポート/作品					
発表					
小テスト					
試験					
その他	実習日誌の内容確認(空欄の有無、訂正・修正箇所の対応など)。学内における提出日を設け、提出期限を厳守していること。		30		
合計			30	70	

回数	授業計画
1	
2	≪保育実習の意義・内容・方法を確認し、実習施設での実習準備をする≫ 事前に実習施設のHPに当たり、施設の沿革・サービス内容等を調べておくこと。事後は実習報告書他の書類を提出すること。
3	1、実習担当と相談して実習施設を決める。
4	2、実習に向け課題を設定する。
5	3、実習オリエンテーションを組んでいただき、諸注意を再確認し、それぞれの施設の考えに基づいた実習準備をする。
6	≪支援全般に参加し保育技術を習得する≫ 1、支援の実際を観察し、理解する。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の沿革や支援方針を知る。 ・特別な支援を要する子どもの実態を知る。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の環境を知る。 ・1日の流れを知る。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の環境について知る。 ・保護者の願いについて知る。
10	2、支援の実際を体験し、自分の「支援観」を見出す。 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の支援方針や支援計画を理解し、準備を手伝いながら支援法を学ぶ。 ・支援のねらいを理解し、準備を手伝う。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの活動を注意深くとらえ、保育士の支援の仕方を学ぶ。 ・子どもが降園した後の仕事を理解し、積極的に手伝う。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の願いが個別支援計画や日々の支援にどう生かされているかを学ぶ。
13	3、実習反省会を開いていただき、反省・評価を含めた指導を受け、新たな課題を見つける。
14	≪自分の「支援観」と向き合う≫ <ul style="list-style-type: none"> ・向上心を持って子どもと向き合う姿勢を再確認し、新たな課題に取り組む。
15	